



報道関係者各位

2026年3月2日  
ユーシービージャパン株式会社  
第一三共株式会社

## 抗てんかん剤「ビムパット<sup>®</sup>錠・ドライシロップ<sup>®</sup>・点滴静注」の 共同商業化契約終了に伴い第一三共株式会社から ユーシービージャパン株式会社へ販売移管

ユーシービージャパン株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：菊池 加奈子、以下「ユーシービージャパン」）と第一三共株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：奥澤 宏幸、以下「第一三共」）は、日本国内における抗てんかん剤「ビムパット<sup>®</sup>錠・ドライシロップ<sup>®</sup>・点滴静注」（一般名：ラコサミド）に関し、2026年8月30日をもって、第一三共が日本で実施している販売・流通をユーシービージャパンに移管し、両社が共同で行っている販促活動を終了する旨、お知らせいたします。なお、2026年8月31日以降は、ユーシービージャパンが単独でビムパットの販売・流通および販促活動を担います。

ユーシービージャパンと第一三共は、製品価値最大化のために2014年に共同商業化契約を締結しました。その後、順調に協業が推進され所期の目的を達成したため、契約満了に基づき、提携を終了することとなりました。ユーシービージャパンと第一三共は、ビムパット錠・ドライシロップ<sup>®</sup>・点滴静注の円滑な販売移管に向けて協働するとともに、移管期間中もこれまで同様、製品供給および医療ニーズに合った製品情報の提供ならびに適正使用の推進に向けた活動を実施いたします。

### ビムパット（ラコサミド）について

ビムパットは、電位依存性ナトリウムチャネルの緩徐な不活性化を選択的に促進することにより、神経細胞の過剰な興奮を低下させる薬剤です<sup>1</sup>。日本では2016年7月に成人の「てんかん患者の部分発作に対する併用療法」で製造販売承認を取得しました。さらに、成人の「てんかん患者の部分発作に対する単剤療法」が2017年8月に、「4歳以上の小児てんかん患者の部分発作に対する併用療法及び単剤療法」に係る新用量が2019年1月に、追加剤形としてドライシロップと点滴静注200mgが2019年1月に、点滴静注100mgが2020年1月にそれぞれ追加承認されました。また、2020年12月に、てんかん患者の強直間代発作に対する併用療法の効能及び効果を追加する医薬品製造販売承認事項一部変更承認を取得しました。

国内で販売している剤形：

ビムパット錠50mg

ビムパット錠100mg

ビムパットドライシロップ10%

ビムパット点滴静注100mg

ビムパット点滴静注200mg

## てんかんについて

てんかんは、有病率が約 1%、世界に約 6,500 万人の患者さんがいる疾患で<sup>2</sup>、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢で発症します<sup>3</sup>。日本では約 71 万～93 万人のてんかん患者さんがいると言われ、毎年 8 万 6,000 人が新たにてんかんを発症していると考えられています<sup>3</sup>。てんかん発作は臨床症状などに基づき、部分発作（二次性全般化発作に移行することもある）、全般発作および分類不能のてんかん発作という 3 つの主要なタイプに分類\*され、このうち部分発作は、全症例の約 60%を占める最も頻度の高い発作です。患者さんの大部分が長期的な薬物療法を必要としますが、本邦のてんかん患者さんの約 30%は、単剤療法または併用療法として複数の抗てんかん剤を使用しているにもかかわらず、コントロール不能な発作に苦しんでおり<sup>4</sup>、有効で忍容性の良好な新しい抗てんかん剤が依然として期待されています。

\*ILAE（国際抗てんかん連盟）2017 の分類名では、部分発作は「焦点発作」、二次性全般化発作は「焦点起始両側強直間代発作」、分類不能のてんかん発作は「起始不明発作」と用語改訂されました。

## UCB（ユーシービー）とてんかんについて

UCBは、世界のてんかん患者さんの日々の生活を改善するために、新規抗てんかん薬の研究開発に20年以上にわたり、長期的に取り組んでいます。てんかんと共に生きる患者さん一人ひとりが人生をより良く生きることをサポートするために、有効な解決策についての知識を深め、その解決策をさらに多くの患者さんが利用できるように努めています。そして、世界のてんかんコミュニティの魅力的なパートナーとなることが我々の目標です。我々は、他の研究施設や製薬企業、組織に属し、目標を共有する世界的科学者や臨床医の方と提携し、高度なネットワーク構築を目指しています。UCBは、患者さんに鼓舞され（Inspired by patients）、科学に立脚して推進する（Driven by science）ことで、てんかん患者さんをサポートする努力を日々続けています。

## UCB（ユーシービー）について

UCB（[www.ucb.com](http://www.ucb.com)）は、ベルギーのブリュッセルに本社を置くグローバルバイオフーマで、ニューロロジーや免疫・炎症領域の重篤な疾患と共に生きる患者さんのより良い生活の実現を目指して、革新的な医薬品の研究開発ならびにソリューションの提供に力を注いでいます。約40カ国に拠点を置き、従業員数は9,000名あまりを擁しており、2024年の収益は61億ユーロでした。UCBはユーロネクスト・ブリュッセル証券市場に上場しています。

ユーシービー・ジャパン株式会社はUCBの日本法人として1988年に設立され、抗てんかん薬、関節リウマチ治療薬および乾癬治療薬を中心に医薬品事業を展開してきました。2023年より希少疾患領域でも治療薬の販売を開始しました。患者さんにとっての価値を創造するバイオフィーマリーダーとして、従来の治療で十分な改善が得られなかった患者さんに、新たな治療の選択肢を提供することを目指しています。ユーシービー・ジャパンの詳細については<https://www.ucbjapan.com>または、[LinkedIn](#)、[YouTube](#)をフォローしてご覧ください。

## 第一三共株式会社について

第一三共グループは、「世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことをパーパス（存在意義）に掲げ、2030年ビジョン「サステナブルな社会の発展に貢献する先進的グローバルヘルスケアカンパニー」の実現に向け、がん領域や循環器領域などの革新的な医薬品を世界中の患者さんに提供していきます。また、サイエンス&テクノロジーの優位性を活かし、新規モダリティの技術研究等を通じた創薬力の強化を目指しております。第一三共グループは、患者さん、医療関係者等の皆さまの多様なニーズに対応するべく、イノベティブ医薬品（新薬）に加え、ワクチン、OTC医薬品の事業を展開しております。詳細については、[www.daiichisankyo.co.jp](http://www.daiichisankyo.co.jp) をご覧ください。

## 出典

- 1 Errington AC. et al. Mol Pharmacol. 2008;73 (1) :157-169.
- 2 Moshé SL. et al: Lancet. 385 (9971) ,884-898, 2015
- 3 日本てんかん学会：「てんかん専門医ガイドブック 改訂第2版」診断と治療社. 2020
- 4 松本理器 てんかん治療2020 神経治療 38: 437-440, 2021

この件に関するお問い合わせは、下記にお願いします。

ユーシービージャパン株式会社 渉外・事業開発本部 広報

TEL : 03-6864-7387

第一三共株式会社 コーポレートコミュニケーション部

TEL : 03-6225-1126